



# AA 通信

2007年(平成19年)5月1日 第2号

東京都渋谷区代々木2丁目23番1号  
ニューステイトメナー865号室 (〒151-0053)  
Tel 03-6240-2300 Fax 03-6240-2301  
E-mail : info@asset-adv.co.jp



(株)アセット・アドバイザーの安食正秀です。  
当社からの情報を「AA通信」と称して、隔月毎に皆様へお伝えして参ります。

## ☆☆☆ 時候コラム ☆☆☆

真夏日より気温の高い日の呼び方が決まりました。なんと、「猛暑日」です。夏日が25℃以上、真夏日が30℃以上でした。猛暑日は35℃以上です。次は???、考えただけで恐ろしくなります。

## ☆☆☆ 通信トピックス ☆☆☆

### 【信託制度の歴史について】～信託制度の起源が日本であった可能性～

「信託」に関する講習を受けて来ました。正式には「信託受益権販売業務および信託関係法令に関する知識」習得講習です。信託法が大きく改正されています。私は、相続や不動産の問題解決において、今後「信託」が大きな役割を果たすのではないかと考えていますので、大変興味を持って講習を聞いてきました。

講習前半で、筑波大学法科大学院教授の新井誠先生に「信託の歴史」を教えて戴きました。

「信託」制度の起源は、英国の「ユース(use)」であるとの学説が有力で、「use」とは「使う」という意味ではなく、ラテン語の「〜のために」に由来しているそうです。ユースとは「委託者Aが受託者Bに対して、受益者Cのために対象財産を管理するという条件を付したうえで、Bに当該財産を譲渡する。」というものです。このユース制度は13世紀には一般的に普及していたと言われ、その社会的なニーズ(需要)は、主に①十字軍や百年戦争等の海外出征時の財産委託、②聖フランシスコ教団への財産寄進。が挙げられます。

①では、出征する騎士たちが、自分の家族のために、自らの信託する友人等に、自分の土地を委ねて戦争に赴いていった。委託を受けた友人は、委託者の出征中は土地を適正に管理して、その収益を残された家族(＝受益者)に対して給付し、更に委託者が無事生還した暁には、受託した土地を委託者に返還する。

②では、聖フランシスコ教団は、団体も修道士個人も、財産を直接に所有することを禁じられていたために、その信者は寄進に際してユースを利用した。信者たちは、修道会のための利用という目的を明示したうえで、地域の町村等に土地を寄進した。このようにユースが利用されたようです。まさに「信じて託す」制度です。

新井先生の話が興味深かったのは、英国が起源と言われる「信託」制度が、その500年も以前に日本で使われていたという話でした。

法学者である米倉明教授によれば、日本真言宗の開祖である空海(774-835)によって、京都に天長5年(828年)設立された、教育施設「綜芸種智院(しゅげいしゅちいん)」では、「信託」の手法が使われていた。その施設では、空海に帰依して

いた貴族等が土地等を出資して教育機関を設置したと言われており、この設置の際に、宗教者たる空海に直接財産を譲渡出来なかったため、出資の受け皿となる第三者が介在した。と論されています。英国「ユース」の②のニーズです。

更には、織田信長(1534-1582)が、皇室に対する経済的支援に「信託」制度を用いたと言われています。洛中(都の内)、洛外の全田畑に段別米を課(反を単位として課税)し、徴収した米を京都の町々(商人)に預託した。受託した町々はこの米を他に貸し付けて収益を上げ、この収益である利米を皇室に納めさせた。と論されています。

新井先生は、現在は英国が起源と言われる「信託」の制度は、実はわが国で生まれた手法が、シルクロードを通して英国で開花したという学説を、研究を重ねて確立するのが夢であると語られていました。その日が楽しみです。

日本では再び「信託」制度を活用する方向に進んでいます。制度を運用する方々が「信じて託す」の起源をよく認識して、安定した運用が社会に広まる事を期待したいと思います。

## ☆☆☆ 家族で ☆☆☆

### ◇祖父母の墓参りに行きました。

約半年ぶりに、お墓のある八柱霊園(千葉県松戸市)に行きました。霊園へ向かう道路の両側には、墓石屋さんがズラッと並んでいます。私はカルテル(企業の独占による協定)を思わせるこの風景が好きでなく、いつも近くのスーパーで花と線香を買ってお参りをしていました。ところが今回は、お世話になった墓石屋さんに、今でも我家の手桶がある事が気になり、思い切ってその墓石屋さんを訪ねることにしました。祖母の納骨以来でしたので12年ぶりです。手桶を探していると、女将さんが来られて名前を聞かれました。答えると、本当に懐かしい様子で「安食さんの手桶はここにありますよ。」と、数百個ある手桶の中から間違えず取り出してくれました。これに驚いていると、43年前にあった祖父の納骨の様子、その後、祖母が毎月墓参りを続けた様子を語り始めました。正直とても驚きました。全員を覚えているのか、それとも我家だけなのか、いずれにしても、女将さんの商売に対する誠意が、これを記憶させているのだと思いました。家族全員を紹介し、半年後に来ることを約束して、花と線香を買いました。金額を聞くと、やはりカルテルを感じましたが、祖父母の事を覚えてくれる女将さんの存在を思えば安いものです。これからは、この墓石屋さんに寄って墓参りをしたいと思います。